

美術部 浦野 勝雄

小学校の隣に天平時代、上野国分寺の遺跡がありました。本殿跡は篠竹がぼうぼうと生えているヤブで、周りは畑でした。畑では農家の人が耕すとき、石と一緒に掘りだした遺物を周りのあぜ道へ放り出していました。やぶの中には瓦破片、土器のかけら、矢じりなどが散らばっていました。学校帰り畑から出た遺物を拾ったり、やぶに入り、かけらを探しました。この陶片が陶器との出会いでしたし、陶器好きになったきっかけだと思っています。拾った中に文字を書いた瓦があったりしました。後日私が不在の時、町の歴史研究家が実家を訪ねてきて、拾った遺物を見せてくれと、母親に言ったそうです。母親はそんなに大切なものであるなら、もって行ってくれと行って、すべて彼にあげたそうです。結果オーライですが少し残念でした。数年前半世紀しぶりに尋ねました、今は立派に整理されて、遺跡公園になっていました。本当は昔の状態が往時をしのべる本当の遺跡のような気がします、新しいカラフルな建物、ヘンス、など見ると逆に天平時代を感じることができないような気がしました。

社会人になってから、展示会、美術館、博物館へ行って陶器鑑賞をするようになり、また陶器関係本を購入し少し勉強しました。特に中国陶器に魅力を感じました。中国、タイ、日本の陶器に関しての思い出を書いてみます。

中国陶器

約半世紀前になりますが、シェルに入社した時、昼休み霞が関界隈の陶器店を見て歩くのが楽しみでした。特に近くに雪紅堂と言う中国陶器を販売する店がありました。中国の新しい陶器と中古品もあったと思います。店の主は戦中・戦後の有名人（中国の公務員であったという西園寺家の西園寺公一）の奥様だと店員より聞いたように覚えています。確かに洗練された上品さを醸し出した婦人でした。店の名前はこの奥様の本名だとも聞いたように覚えています。

毛沢東の時代でしたので、それほど自由に往来できなかつたと思いますが、この店はルートがあったのでしょう。この店で中国陶器に魅せられ、小さい色の良い辰砂釉の一輪挿しを購入しました。私の最初の陶器購入です。文化大革命終了後、この店も閉店したように覚えています。



中国の中古辰砂一輪挿し 高さ 10cm
雪紅堂にて



1994 年ころ甘肅省敦煌の夜店（屋台）で店主と駆け引きしながら購入した中古大皿、私が好きな皿です

美しい中国陶磁器を見るため、出光美術館などが中国陶磁器の展示をするときはよく出かけました。歴史上最初の彩文陶器、宋時代の青磁、元時代の染付壺、明・清時代の色絵、などに魅力を感じました。出光美術館には陶器の破片も沢山あり、釉薬の厚さ、窯ごとの焼き物の破片などがよくわかるように陳列されていますので、参考になりました。

中国へ出かけた時は時間を見つけて故宮美術館をはじめ、いくつかの都市の美術館へ行きました。みなそれぞれ素晴らしい陶磁器を展示していました。どこの都市だったか忘れましたが、展示品をすべて盗難で失った美術館もあり驚きました。館員かどうか分かりませんが近くの人が「今頃は香港にあるだろう」などと言っていました。

今は知りませんが、ある美術館内部で中古陶器の販売もしていました。販売員に聞いたところ100年たっていない中古製品を（光緒帝以後）販売しているのだと言っていました。販売する陶器は高台内に国外持ち出し証明用の印が貼り付けてありました。

タイの古陶器

日本人はタイの陶器をスンコロクと呼び茶人が愛用したと言います。スンコロク窯はタイのスコータイ市の郊外にあります。ベトナム戦争が終了した後だと思いますが、タイへ行く機会があり、スンコロク窯はどんなところか、行ってみたいくなりました。バンコックの知人は危険だとして止めましたが、どんな窯だったのか知りたく、窯跡を訪ねました。バンコックから飛行機で1時間弱、スコータイに到着、翌日スンコロクへ行くために車をハイヤーしようとしたら、運転手が郊外へ出るのは危険だと言いました。理由を聞きましたら、2週間前若いドイツ人夫妻が強盗に射殺されたといったので、少し躊躇しました。何かアイデアはないかと運転手に聞きましたら、警察官に依頼し車に同乗してもらえば良いといわれたので、交番へ行き運転手が交渉、銃を持った警官が助手席に乗り出発しました。

窯跡はまだ昔のままで密林の中にあり、いろいろな絵がかかれた皿の小破片が散らばっていました。大きい破片は見あたりませんでした。大きい破片は地元の人たちがすでに拾い集めたようで、ありませんでした。めったに来ない見学者がくると、地元の青年がやぶの中からバケツ一杯の大きい破片をもって現れて、買ってくれと言ってきました。そこで購入したのが、魚絵の大皿破片です。沖縄の金城漁とどこか似ています。



タイ スンコロク窯の皿破片
スコータイの窯跡で購入



沖縄 金城 次郎作 湯呑

沖縄

沖縄へ数度行く機会がありました。ある時、土産に金城次郎のいわゆる金城漁の湯呑を買って帰りました。約1か月後、金城次郎が人間国宝に指名されると報道されました。1碗1000円だったと思いますが、途端に10倍になりました。日本人のものの見方・価値感をよく表した出来事を身近に感じました。

作陶

定年近くになって、会社卒業後の趣味として自分で造ろうと考え、区のシルバーセンターが初心者向けの講習会を開いていたので、応募そこで、粘土のいじり方、手ロクロを習い、あとは自学自習で始めました。窯元も何か所か尋ね、作陶中の陶工の作陶方法を学び参考にしました。

世田谷区は区民の生涯学習目的で区内に3箇所、陶器製作の場所を提供しています。団地住まいですので、私は区の北西部にある世田谷陶芸協会（船橋小学校陶芸教室）に入り土曜日の夜ここで造っています。この協会は指導者いません。

会員は現役の人もいますが主に定年後のシニアです。各自、自分の決めた曜日と時間に行き、好きなものを勝手に作ります。年一回展示会を開きますが、昨年、今年はコロナのため中止です。

10年ほど前まではすごい陶芸ブームで会員も600人ほどいましたが、最近はブームも去り、150名くらいです。人々の陶器造りの熱も冷め、陶芸関連材料もユザワヤや東急ハンズ店からほぼ消えました。

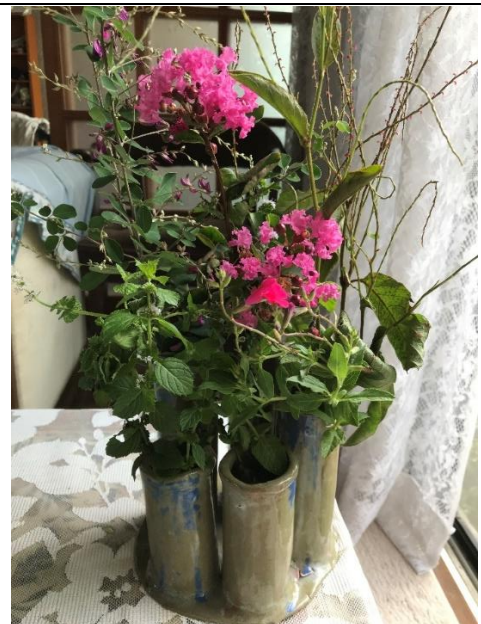
訓練すると並みのものはできるようになりますが、どの分野も同じと思いますが、次のステップへ進むのが難しく、いまだに思ったものが出来ません。陶器は一度完成したものを直すわけにはいきません。完成度をあげるためには粘土の種類、釉薬、焼成方法（酸化、還元）、焼成温度などを変え、焼成する必要があります。変数が多く組み合わせは大変な量になります。魯山人は「狂人にならなければよいものはできない」と言っています。

始めた当初は意欲があったのですが、定年後思ったよりも時間がさげず、片手間では思うようなものができないし、狂人になれずでした。

現在、ほそぼそ続けています。湯呑、茶碗、皿類などを作って自家用で使っていますが、最近日常雑器も不要になり過去10数年間は気が向いたときに作るレベルです。



R-1 リアクター型（福島第一原発記録）壺



ISIS がパルミラ遺跡を破壊した記録 花入れ

福島第1原発原子炉事故記録 R-1 型壺

2011年3月11日 仕事から帰って家にいた時この地震に遭遇しました。災害は忘れたころやってくると言われますが、まさにその通りになりました。吉村昭の「三陸海岸大津津波」によると東北三陸海岸には、あちこちに「これより下に家 建てるべからず」と言う石碑があるそうです。この教訓を守った部落は被害がすくなくったといひます。そこでこの事件を忘れないように、福島原発1号炉のリアクターを模した壺を作りました。ところが不思議なことに、素焼きしたら製作した壺の底が、抜けたのです。偶然の一致ですが、面白いことが起こることもあると考へ、この壺は没にせず、糊で貼り付け本焼きしました。私の自然災害に対する記念碑壺とし花瓶として使用しています。

ISIS の暴挙記録花入れ

最近人類が長い間守ってきた中東やアフガニスタンの遺跡が破壊されました。バーミヤンの石仏がアルカイダにより爆破され、ISIS によって中東遺跡や、パルミラ遺産が破壊された悲しい出来事を記録したく作成しました。

今年は今現在コロナで、教室が使用できません、現状では教室がいつ使用できるようになるかどうか分かりません。もし使用可能になり、時間があれば、何か展示会用に作らねばと考へています。どんなものができるか分かりませんが、もしできたら年末の展示会に出展しようと思へています。

お読みいただきありがとうございます。